## 志布志の大クス

【所 在 地】志布志市志布志町安楽 1519 - 2

【種 別】国指定天然記念物

【指定年月日】昭和16年11月13日



志布志町安楽の山宮神社境内の入口右側に,「蒲生のクス」や「塚崎のクス」と並ぶ大きなクスノキがある。樹高 22.0m, 目通し周囲 18.6m, 根廻り 24.3mで,推定樹齢は約1,200年といわれる県下を代表するクスノキである。クスノキの基部には大きな空洞があり,根の一部には枯死部分も見られるが,土盛りや枝の支柱の設置など保護の手も加えられ,樹勢は良好である。

樹幹には ,ハゼノキ ,カクレミノ ,ネズミモチ ,トベラ等種子植物とシダ植物合わせて 18 科 24 種の着生植物が確認されており , 蘚苔類も多く着生している。地上 4~m ほどのところで 6 本の大枝に分かれ , 東西約 43m , 南北約 33m にわたって樹冠を広げ , 樹形の良いことで知られている。

山宮神社の祭神は天智天皇などで,天智天皇行幸の際のお手植えのクスと伝えられる場所に,元明天皇により和銅2(709)年創建されたといわれる。山宮神社の名に改名されたのは明治になってからで,神事として春祭りの「カギヒキ,正月踊」(県指定無形民俗文化財)が有名である。